

平成 24 年度 第 2 回呉市地域公共交通協議会

- 議 事 要 旨 -

日 時 平成 25 年 2 月 22 日 (金)

14 時～15 時

場 所 呉市広公民館 5 階 504 第 2 講座室

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

議案第 1 号 呉市地域公共交通協議会補正予算 (案) について…………… 資料 1

議案第 2 号 呉市地域公共交通調査検討業務について…………… 資料 2

議案第 3 号 呉市地域公共交通協議会分科会の設置について…………… 資料 3～5

議案第 4 号 安浦地区における生活バス事業計画の変更について…………… 資料 6

4 その他

5 閉会



- 議 事 -

(1) 呉市地域公共交通協議会補正予算(案)について

発言者	発言要旨
■資料1について、事務局より説明	
会 長	・質疑等があればお願いします。無いようなので、本件については承認されたこととして異議はないか。
一 同	・異議なし

(2) 呉市地域公共交通調査検討業務について

発言者	発言要旨
■資料2について、事務局より説明	
会 長	・質疑等があればお願いします。
副会長	・回答者の年齢で60歳以上が多く、全体の60%以上であるが、実際の呉市の人口分布と比較してどうか。
事務局	・呉市の人口構成でいうと、60歳以上の方は全体の37%であり、比較するとかなり高い状況ではある。
副会長	・分析する際に年齢別で見るといったことはするのか。
事務局	・需要のボリュームを把握する場合は、年齢構成を基に、需要の調整を行いたいと考えている。
副会長	・交通手段の分担率について、複数の交通手段を選んだ場合は全てカウントされているのか。または、代表の交通手段のみか。
事務局	・複数回答していただく設問となっており、それらを全て表示している。
会 長	・回収率にはばらつきがあるが、理由はあるのか。
事務局	・関心度の違いということではないかと推測される。全般的に非常に回収率が高い。これは自治会の方でかなり協力して頂いた表れと考えている。
副会長	・集計は今年度中に行うということか。
事務局	・そうである。
副会長	・「2. 各種調査・分析の進捗状況」の「(4) ICカード乗車券利用データの利用状況の分析」の最後に、「モビリティマネジメント等の公共交通利用促進を検討するための基礎データを整理」とあるが、モビリティマネジメントを実施する可能性があるということか。大がかりで大変だと思うが、手法として述べているだけか。
事務局	・現時点では、具体的な検討は出来ていないが、全ての公共交通の利用促進をする目的で実施したいとは考えている。
会 長	・他に質疑等はないか。無いようなので、本件については、引き続き、事務局を中心に検討を進め、とりまとめ結果等については、次回の協議会で報告させていただく。

(3) 呉市地域公共交通協議会分科会の設置について

発言者	発言要旨
■資料3～5について、事務局より説明	
会 長	・質疑等があればお願いします。無いようなので、本件については承認されたこととして異議はないか。
一 同	・異議なし

(4) 安浦地区における生活バス事業計画の変更について

発言者	発言要旨
■資料6について、事務局より説明	
会 長	・質疑等があればお願いします。
委 員	・車両を1台増車とあるが、バリアフリー基準の適用除外関係の手続きは。
事務局	・事前に相談し、申請準備をしている。
委 員	・申請理由は、いわゆる狭隘道路という地形上の理由か、それとも幅2.1m以下等によるものか。
事務局	・両方の予定である。
委 員	・路線が非常に分かりにくい。以前、作成した連携計画では、デマンド等で効率化を図っていくと記載されているが、これは将来的に行うということか。
事務局	・利用状況等の調査は行っているが、移動形態を踏まえると思いついた変更は出来ておらず、今後精査をしてルートをすっきりさせたい。これは暫定的なものであり、スクールの導入を考慮してこのような形になった。地区の方の意見は全て把握できていないが、全ての要望を満足させるのは難しい。今回の変更が最終ではなく、継続して検討していきたい。
委 員	・地域の声は十分に反映されているのか。
事務局	・この路線以外でも不満のある方はおられる。自分が行きたい方向に行けない場合もある。全ての方の要望を満足するにはタクシーのような運行をしなくてはいけない。現在利用している方の行動パターンを踏まえると満足していただいている。更に利用していただけるよう、地域に働きかけを行っているが、今後は、利用を前提とした増車も考える必要はあると考えている。今の段階では、全ての人々の要望を踏まえた運行は難しいのが実情である。
会 長	・小・中学生はどのくらいいるのか。
事務局	・多い便で10名、少ない便で1～2名くらいである。利用は非常に少ない。
会 長	・通学以外は利用が少ないので、関心が低いのかかもしれない。
事務局	・現在、一部区間ではフリー乗降としており、ほぼ自宅前で乗降できる運行にしている。日常的に利用している人もいるが、利用する人と利用しない人との差が大きい。
会 長	・高齢化が進めば利用する人も増えると思う。私たちが運転できなくなるくらいには考えないといけない。

発言者	発言要旨
委員	・自家用車と自転車が多い地区である。
会長	・割と坂も多いところか。
事務局	・坂もだが、地区間の距離があり、端から端まで15～20kmあり、移動するのに時間がかかる。バス路線も周回に時間がかかるため、頻繁に便が出せない。路線を間引けばそのような運行も可能だが、現実的に難しい状況であり、便数を増やすためには増車しかない。実際にタクシーを利用している方も見られ、別の交通機関との棲み分けも必要であると考えている。
委員	・バス停移設とあるが、地元の警察と交通安全上の問題は整理してあるのか。
事務局	・管轄の広署に照会している。
委員	・広管内では、5年くらい前にバスの事故で小学生が亡くなる事故があった。新入学の子供さんに対して、バスの乗り方やバスの前後で横断しないことなど、学校と連携を取りながらやっていきたい。安浦は警察署からかなり遠く、道も狭い。今の時期は凍結によるスリップ事故もおきている。バスの運行事業者さんにも安全対策をしっかりとっていただきたいと考えている。
会長	・他に質疑等はないか。無いようなので、本件については承認されたこととして異議はないか。
一同	・異議なし

- その他 -

発言者	発言要旨
会長	・せっかくの機会ですので他に何かありますか。無いようなので、これで閉会とさせていただきます。